事剂	3務事業評価シート1−1 □は、ブルダウンメニュー							196選択			环務事業No.		12 – 3	
事	業 分 類	☑ ソフ	7ト 🗌 ハ-	-ド <u> </u> ม่	>需	公 的	関	与	9 作 原	戊日	27 年	4	月 日	
事	務事業名	農産物力	ロエ処理セン	ター経費事	事務				シ	_	ト f	乍 尽	ない 部の 署	
総合		5 賑わ	うまち						課名	卢	産業課	係名	産業振興係	
合計	基本施策 	5-1 働	きがいのある	るまちをつ	くる					卜作	成者	74		
画上		5-1-1									 -般			
の	施策								予算	å	坎		6	
位置		③ 地垣	③ 地域特産物の開発							ij	Ī	1		
付付	主要施策									E	•	3		
け											-			
۱.	固別計画名													
•														
<i>1</i> +	民との	関わ	り住民の日	コーン 注動に	かする	支控 (坦」	の担併	~ ~ ~ 徑	Вh	桂椒担 从	+ \		
<u> </u>	対象(誰を、		9 ELO	コエル動に					、貝ェルンたいのか		IH +K1Æ 7	• /		
事	住民	, M & /				•				-) 地産地注	肖を追	Éめる。	
業の				農産物の加工を通し、消費拡大を図り地産地消を進める										
対														
象	事業内容(どのよう	な方法で、何	可を行うの	か)									
目的	町の広報及び	ゾケーブ	ルテレビを通	近て、「	自家用									
-			啓発を図りま 産地消の拡力			農を両立	する	「食農	推進事業	」のI	取り組み	も踏 ^っ	まえ、施設	
内容	11/11/07/05/2	E 0 1 C 2 C 1	/王/G/H 4/ I/A/	(60)6	, 0									
事	業期	間	昭和 平成	<u> </u>	F 度	~ ₹	成	年月	隻 (年間]) 🗸	期間	設定なし	
根	拠法令・〕	要綱等	東員町農産物	物加工処理	センタ	一利用智	建規	,則						
			平成25年度(決算)			平成26年度(決算)			461	平成27年度(予算)			工作 \	
→	本事業費(千円)	平成253	干度(次昇	365	+ A	(20 4	及(次	380		十八2/4	F度((アリ) 428	
	国庫支				0				000				0	
財		出金			0				0				0	
源	地方	債			0				0				0	
内訳				0					0				0	
	— 般	財源		167									230	
直排	直接事業費(千円)A				167					230				
人f	牛費(千円)	В			198				198				198	
内	一般職員(人	・千円)	0.03 人		198	0.03	人		198	0.	03 人		198	
訳	臨時職員(人	・千円)	人		0		人		0		人		0	
	成果指標名					単 位	26年度		1			复	28年度	
							目標			実績)	(目標)	
成	1 講習会参加人数(自家用みそづくり)					人		30	30		30		30	
				- ()/							- 00			
果	2			- (),									00	
果指標	3	引数 た 性・	標としていま								00		00	

事務事業評価シート1-2 事務事業No. 12 -										- 3					
事業	集名 農産物加工処理センター経費事務										シート作	成課		産業課	
	一次評価者 産業課長						二次評価者				建設部長				
				Ŧ	・ェック項目		- * - * 一次の評価又は					よ説明	ı		
	要性	2 社 3 相 4 住 5 6 耳 7	会情勢の変化: 用者、対象者(民ニーズを上 や他市町と比! や県のサービス	的を概ね達強を なの回を を は減り は減り は を は は は は と を を は と は と は く て る を さ る を き さ と き る し る と き る き る き る き る き し て と し て し て し て し て し て し て し て し て し	りが変化してきて! oれる。	いる。					こより、町内産農産物の しています。				
	有効性	2. 施	策への貢献度	現するために、 が著しく高いと ・重複した事務	りとはいえない。					設を利用しての事業については、 から高い評価を得ています。					
評		4. 事	業の継続をし												
価項目の説	成度	2 事	業開始時の目標 業開始時の目標 は は は は は は は は に は に は に は に る に る に る						豊推進事業が加わり、利用頻度は向上 ています。今後も施設の有効利用に努 ます。						
明	効率	2 現他 4 他事 6 電	在の事業実施の実施主体の の実施主体を ま実施してい 子化等の事務	主体の他に効率 ノウハウを活用 活用しても公平	品間に比べて)。 を体がある。 1、行政責任が問: 川滅の余地がある。				施設の利	設の利用率は向上しています。					
			1177147 000	<u> </u>		事務事業の	宇施海	切代	ອ ເ	<u> </u>					
	であ	を物の消費拡大には有効な施設ではありますが、施設規模等から少人数での事業に限定されることが課題あります。事業推進としては、農産物の消費拡大及び加工実習の普及を図るため、「自家用みそづくり講会」をはじめ、食と農を両立する「食農推進事業」の取り組みを行い、地産地消の拡大を図っています。													
	必要性 4		見性	有効性 達成		度 効率性		퇃性	総合評価						
			4	ı	4	3		3		3	® E	3	8	<u>А</u> С	
次	소설	\$ @			/	見直し雑							<u></u>		
評	今後の 方針			休・廃止		見直し				維続	2	(5)		t	
価	今後の 改革 改善 改善 日標 施設を有効に活用 る「食農推進事事 商品化への開発 など、農業生産者			休・廃止		見直し				継続	<u>(2)</u>		拡力	t	
	改革	をの 革・ 養・	施設を有 る「食農 商品化へ	可効に活用 骨推進事業 の開発・	」の取り組みる 研究及び販売(毎年開催す を実施して 足進、付加	います。 I価値の記	。今 高い	後は 農産	O づくり講 、農業者 物の生産	② 「背習会」 「自らが	こ加え、意	拡 力 食と 加工を	農を両立す を通じて、	
	改革	をの 革・ 養・	施設を有 る「食農 商品化へ	i 効に活用 {推進事業 の開発・ {業生産者	」の取り組みる 研究及び販売(毎年開催す を実施して 足進、付加	います。 価値の 必要がる	。今 高い	後は 農産 ます	O づくり講 、農業者 物の生産	② 「背習会」 「自らが	こ加え、意	拡 え 食と 見か かった を	農を両立す を通じて、	
	改革	をの 革・ 養・	施設を有る「食農 商品化へなど、農	京効に活用 操推進事業 への開発・ 農業生産者	」の取り組みる 研究及び販売(の経営安定も6	毎年開催す を実施して 足進、付加 并せて図る	います。 価値の 必要が 度	。今 高い	後 農 ま 効	〇 づくり講 、農業者 物の生産	② 「背習会」 「自らが	こ加え、 豊産物の 図るシス	拡 力 食と思る とエム 評価	農を両立す を通じて、	
二次	改改目字	を革養標価の	施設を有る高い。	京効に活用 操推進事業 への開発・ 農業生産者	」の取り組みる 研究及び販売が の経営安定も使 有効性	毎年開催すを実施しての を実施して加 がせて図る	います。 価値の 必要が 度	。今 高い	後 農 ま 効	〇 づくり講 、農業者 物の生産 。	電会」に 指自らが 振興を図 を振興を図	こ加え、 豊産物の 図るシス	拡 力 食と思る とエム 評価	農を両立す を通じて、 を構築する	
二次評価	改改目字	を	施設を有る高品化へ農	京効に活用 操推進事業・ の開発主産者	i 」の取り組みを 研究及び販売が の経営安定も使 有効性	毎年開催すて を実施、付加 が が 達成 見直し	います。 価値の高必要がを	, (((((((((((((((((((後農ま 効	○ づくり講 、農業者 物の生産 。 客性	ない は できます は できまれる こう できま	に加え、 農産物の 図るシス 総合	拡 力 食いテンタ 評価 8	慢を両立す を通じて、 を構築する	
評	改改目 評 今方 コ	を革養標価の	施設を有機へ悪を有機へ悪をあると	語効に活事業・者 ・選性 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	」の取り組みる 研究及び販売が の経営安定も使 有効性	毎年開催するを選集を選集をは、 は、 は	います。高のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	、高あ 農地 農地	後農す 効 物 加	○ づくり講者 、 物の生産。 客性 3	野会」に行自らが意味興を図	に加え、で 農産物のス 製るシス 総合	拡 食加テ 評価 編版	き き 通 き 構 築 す る と 構 条 す る と は た る る る る る る る る る る る る る る る る る る	
評価	改改目 評 令方 コン 評る	を革養 価 多針 メト に	施設を有機へ悪を有機へ悪をあると	語効に活事業・者 ・選性 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	回の取り組みを 研究及び販売が の経営安定も 有効性 4	毎年開催するを選集を選集をは、 は、 は	います。高のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	、高あ 農地 農地	後農す 効 物 加	○ づくり講者 、 物の生産。 客性 3	野会」に行自らが意味興を図	に加え、で 農産物のス 製るシス 総合	拡 食加テ 評価 編版	き き 通 き 構 築 す る と 構 条 す る と は た る る る る る る る る る る る る る る る る る る	